2.3 ポスタープレビュー

ポスターセッションに先立ち、平成30年度採択校の富山大学、京都大学、山口大学によるポスタープレビューが行われた。





富山大学 研究推進機構 研究推進総合支援センター 設備サポート・マネジメントオフィス

(30年度~32年度)

「スーパーユーザー養成プログラムによる共用促進」

富山大学 研究推進総合支援センター 設備サポート・マネジメントオフィス

[I] 本学の整備事業の概要

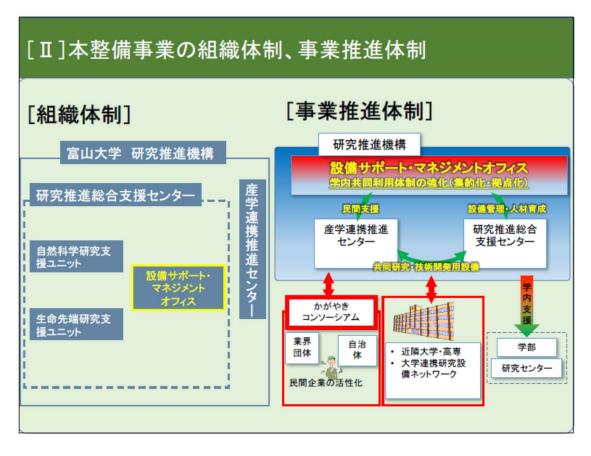
[目的]

3キャンパスに分散されている大型設備を<u>キャンパス横断的に一元管理</u>して学際的共同利用を促進させ、強靭かつ柔軟な研究基盤を整備することにより、脳科学・薬学・材料などの<u>本学の重点研究の先鋭</u>化と学際融合を図る。

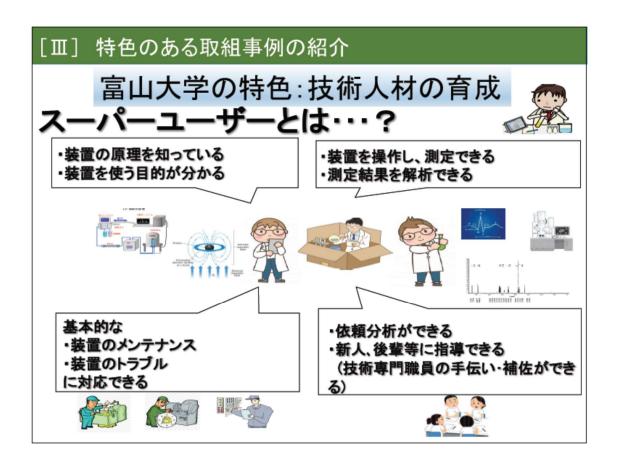
[実施内容]

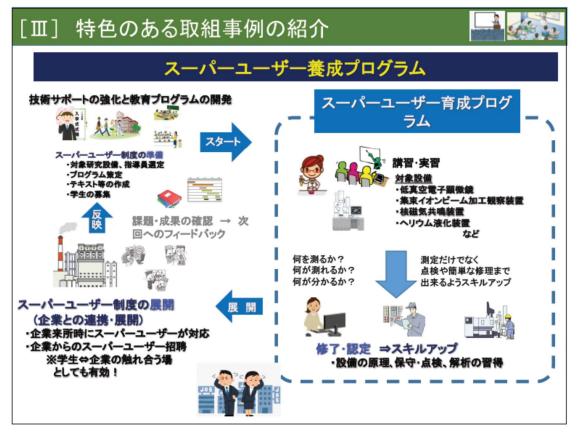
優れたオペレーション技能を有する人材(スーパーユーザー)の育成 を、北陸地域の大学等とも連携して実施し、安定的な設備維持管理を 実現する。

地域の民間企業等が活用しやすい共用システムの構築と人材育成機能の強化により、富山県の特徴であるアルミ産業及びくすり産業との連携をさらに発展させ、大学の研究力強化と地域産業の活性化を図る。









スーパーユーザー養成プログラム

限られたスタッフで教育研究支援の最大化 地域支援の強化⇒共同研究促進

学生のメリット

装置の作動原理をより詳細に理解

チャレンジングな測定

自身の研究の高度化

地元企業・技術者を知る機会

就職活動の際のアピールポイント

■企業のメリット

開発の加速・高度化

共同研究の起点

技術者の学び直し・スキルアップ

学生との交流の場

■技術スタッフのメリット

自身のスキルアップ

管理業務の軽減

三方良し!

富山大学での設備サポートセンター整備事業

4つのミッションを有機的に連携・機能









富山県の特徴 である

> 詳細はブースにて。 是非お越し下さい。

第5回 設備サポートセンター整備事業シンポジウム

京都大学 医学·生命科学研究支援機構

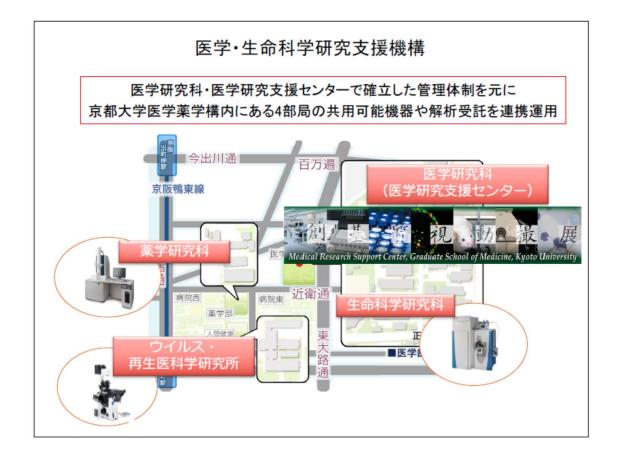
オンライン管理システム共有による効率的な研究支援体制確立に向けて (30年度~32年度)



京都大学大学院医学研究科 奥野 友紀子



日時:平成31年1月24日 会場:岡山大学 創立五十周年記念館



医学・生命科学研究支援機構の中核: 医学研究科・医学研究支援センター沿革

2011

医学研究支援センター開設 (創薬拠点コアラボ、DNAシークエンス解析室、 質量分析室)







2012

蛍光生体イメージング室、マウス行動解析室開室





2014

共通機器の学外学術研究機関への利用公開開始



小動物MRI室開室



2017

共通機器・一部受託解析の企業研究者への利用公開開始 合成展開支援室開室 創薬拠点コアラボのドラッグディスカバリーセンターへの改組 京都大学内スタートアップ企業支援事業との連携

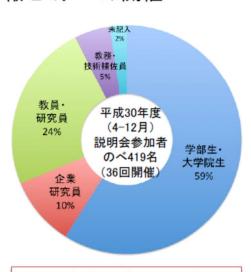


7室の支援室の共同運営により60機を超える機器、6種類の受託解析を利用可能 各種大型事業整備設備の継承等により、研究者レベルの支援人材確保と多様な支援が可能に

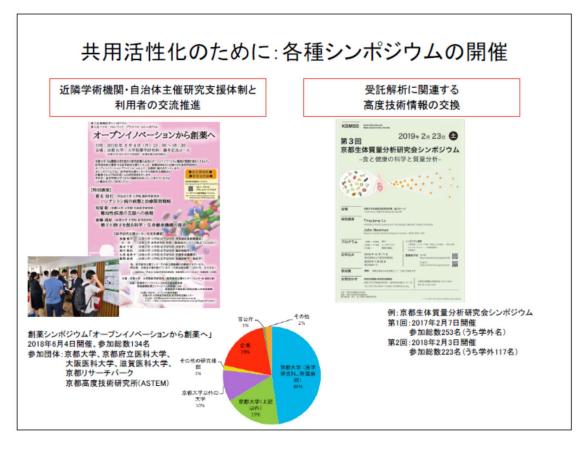
共用活性化のために: 各種機器説明会・情報セミナーの開催

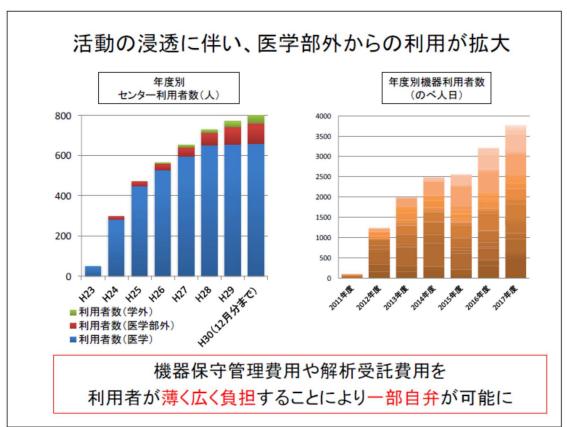


2017年度:48回開催 2018年度12月まで:39回開催 事業開始から通算283回開催



特に学生・若手研究員の参加が顕著 学外企業研究者も参加可能







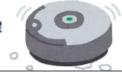


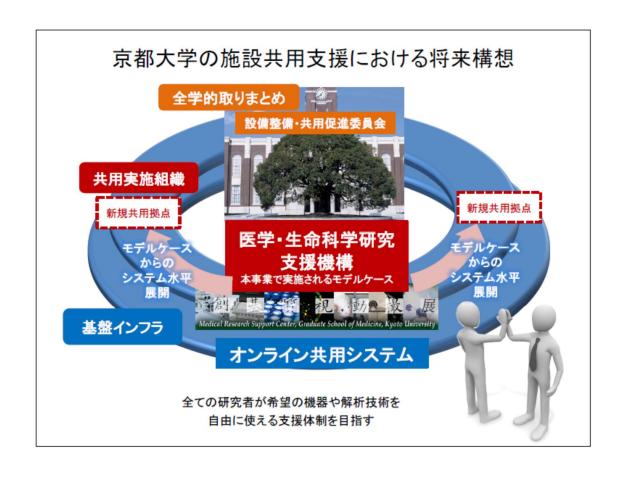
可能な業務についてのオンライン化により業務の迅速・効率化と共有の推進 人員を研究技術支援の実務に集中させる



多数の利用者がいても限られた支援人員で効率的な研究技術支援が可能により多くの経済資源を機器保守管理に振り向けられる

……ちなみに医学研究支援センターの床掃除はお掃除ロボットが活躍





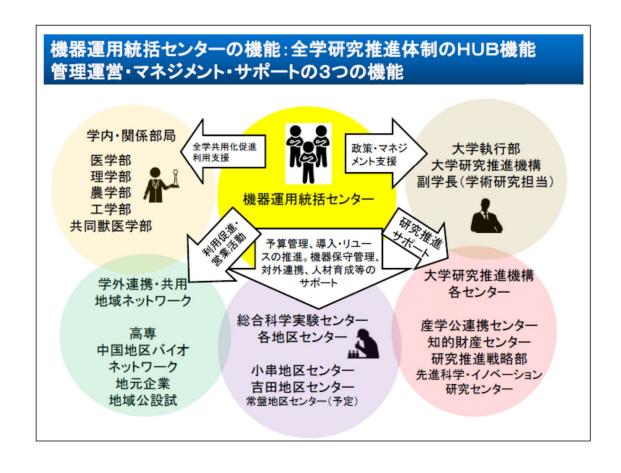


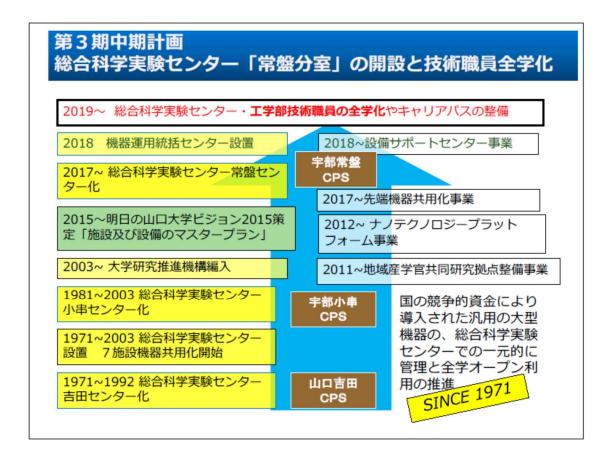
2019-1-24

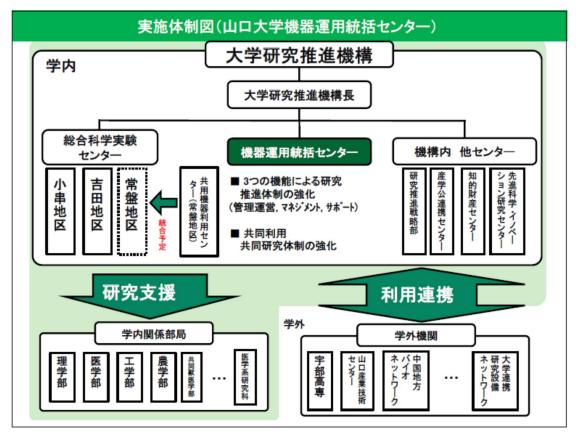


山口大学機器運用統括センター

設備サポートセンター整備事業概要 (平成30年度から平成32年度)







どうやったら利用を増やせるか?



商品開発の歴史を参考

- ユーティリティ型(成長期)



- 新しいサービス(今まで出来なかった事ができる)
- シーズ志向(20世紀の家電製品など)
 - 高機能 = 高価格



- サビリティ型(成熟期)
 - □使いやすいサービス、質の良いサービス ニーズ志向(21世紀のWEBサービスなど

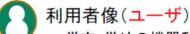




現状分析 (ISO9241-11:1998)



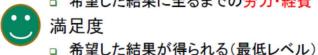
有効さ ユーザが指定された目標を達成する上での正確さと完全さ ユーザが目標を達成する際に、正確さと完全さに費やした資源 不快さのないこと、および製品仕様に対しての肯定的な態度 満足度



- 学内・学外の機器利用希望者
- □ 学内の機器管理者/予算管理者
- サービス内容(製品仕様)
 - □ 機器利用による計測・評価・加工(目標)
 - □ 技術相談



希望した結果に至るまでの労力・経費



- 満足度
- □ 想定以上の結果が得られる





